

す予定で、当初は鋳物生産の多い桑名市に工場設置が計画された。しかし、土地買収をめぐる問題が起こり、隣接する朝日村へ設置されることになった。旧東海道や省線・参宮急行電鉄の鉄道が通り、立地条件に適していたが、それにも増して朝日村の「熱心な誘致運動」があったという。

誘致運動の状況を知る資料としては、『昭和十四年村会二関スル書類』の中に東京芝浦電気（株）と朝日村・同村振興会・小向区・縄生区・縄生井水普通水利組合などが10月19日付けで締結した契約書が綴られている。そこには工場敷地内の道路・溝渠の無償譲渡、家屋・工作物の無償撤去、水路敷の変更などが細かく定められ、会社は契約事項を「履行シタル暁ニハ（中略）朝日村振興会ニ金一封ヲ贈与スル」とし、朝日村振興会（代表村長）が組織されて工場誘致が進んでいったようである。

三重工場の設立は昭和13年3月に決まり、早速4月に高等小学校卒業生50人と旧制中学校卒業生10人が採用され、鶴見工場からの転勤者を含め80人たらずの体制で出発した。工場内には私立三重芝浦青年学校も開かれ、技術習得とともに小形電動機の製造にも着手された。そして、11月には第1工場が完成して本格的な稼働が始まり、徐々に工場が増設され、職員も増えていった。

昭和18年6月の商工省工務官の工場調査（『三重県史』資料編近代3掲載）によれば、職員数男1,872人・女458人を数え、利用率は陸軍10%・海軍60%、官民需30%であった。同年10月には海軍指定工場となり、軍需工場化が進み、女子挺身隊なども動員された。そのため、昭和20年7月24日には同工場が標的にされたのか爆弾が投下され、周辺の縄生区にかなりの被害があったが、8月15日第2次世界大戦の終戦を迎えて翌21年2月に民需転換した。そして、戦後復興期の全国的な電動機供給や朝日村（町）の産業発展に同工場が大きな役割を果たしてきたことは言うまでもない。

記：町史専門委員・文献史料部会 吉村利男

※町史『知っ得』講演会の開催のお知らせ

町史編さんに伴う文化事業の一環として定期的に講演会を開催していきます。

第1回目は、

演題 「道と川から見る江戸時代の朝日町」

講師 塚本 明 氏（三重大学人文学部教授、朝日町史専門委員）

日時 11月21日（土）14時～15時30分

場所 朝日町教育文化施設 2階視聴覚室

聴講無料（事前申し込み不要、先着順）

【講演内容予告】

小向の焼き蛤茶屋や東海道を往き来する旅人、川に掛かる橋や水害と治水など、街道資料と弥次・喜多の物語、地元に残る古文書や伝承等を用いて、朝日町の江戸時代の様子を紹介します。

※取り組みの紹介

【民俗調査】 9月10日（木）、13日（日）、15日（火）、16日（水）、17日（木）、22日（火）、27日（日）、10月5日（月）、8日（木）、9日（金）町内各所にて民俗行事の調査を実施しました。

【陶磁器調査】 9月15日（火）、29日（火）、10月6日（火）、10日（土）陶磁器調査を実施しました。

【文献史料分野】 10月1日（木）三重県史編さん班にて原稿用紙に関する打合せ及び明治期の新聞記事調査を実施しました。

【建造物分野】 9月24日（木）町史編さん課にて建造物古民家実測調査の打合せを実施しました。

墨で書かれた文書類、明治～昭和時代の古い記録、建物・風景写真など、資料提供をお願いします。

問い合わせ先：町史編さん課（朝日町公民館内）TEL 377-5195 FAX 377-5196